

平成28年6月25日(土)  
於：西日本工業大学  
高畑 廣視

築上郡・京都郡町議会議員研修会

# 東九州道と北九州空港の有機的利活用

6月25日、西日本工業大学(京都郡苅田町)で京築管内の議会議員や苅田町の一般の方も含め100人ほどが参加し、研修会が行われました。講演会では、北九州市職員退職後、北九州エアターミナル株式会社社長を務める片山憲一氏が、テーマに沿って100ページにも及ぶ写真やグラフ資料を用いて解りやすく説明されました。講演内容の一部を紹介します。

## 1.京築地区生き残りのために北九州市の現状を知る

- ・富国強兵と殖産興業で西日本から人を集めた理由
- ・人口減少時代を生き延びる戦略

## 2.今、少子高齢化の中で何が起りつつあるか

- ・団塊の世代の退出で財政がひっ迫
- ・新たな産業づくり

## 3.ストック型社会と人材の確保

- ・交流人口を増やす観光産業の創造
- ・門司港レトロは何故産業化してないか

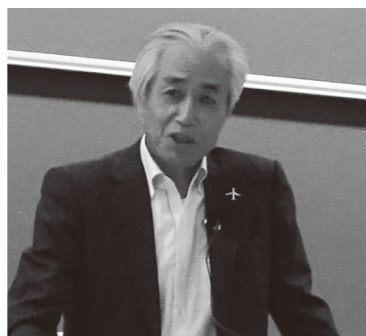
## 4.空港活用で考える地域の活性化

- ・開港10年でやっとチャンスが巡って来た北九州空港
- ・福岡空港の混雑と空港化が示す広域経済への影響

## 5.福岡県の「京築アメニティ都市圏構想」で考えるローカルな経済活性化

- ・「産業の力」向上プロジェクト  
⇒日産九州、トヨタ九州、ダイハツ九州に続くもの  
⇒果物、野菜とブランド化
- ・教育の力  
⇒西日本工業大学を活用する  
⇒マネジメントを学ぶ

講演後、各町議会の代表者が登壇し、「東九州自動車道と北九州空港の利活用と地域の発展」についてパネルディスカッションが行われ、活発な討議を行いました。



平成28年5月30日(月)～6月1日(水)  
於：中野サンプラザホール(東京都)  
宮本 理一郎

全国町村議会議長会主催

平成28年度 町村議会議長・副議長研修会

# これからの町村議会を考える

5月30日～6月1日に中野サンプラザで行われた平成28年度町村議会議長・副議長研修会に参加しました。「これからの町村議会を考える」というテーマで始まり、山梨学院大学大学院法学部教授の江藤俊昭氏による「地方議会の役割と改革の行方」について基調講演がありました。

講演では“住民の根幹となす”とは、住民や自治体ではない。住民自治や協働も大切だが、その根幹をなすは「議会」であり、議会基本条例や反問権、通年議会、報告等、先駆的議会改革は、町民から突破すべきである。また、議会の存続意義は、討議と決定ができることであり、住民に開かれた住民参加型、しかも首長とも切磋琢磨し監視と政策立案の役割を發揮しつつ討議と議決を重視する議会であることだ。といった議会のあるべき姿について述べられました。

今後の取り組むべき課題として①少子高齢化や人口減少②地方分権の進行による地域経営の自由度の向上と財政政策③政治、行政に対する住民からの不信感やこれら議会を取り巻く外部環境の処理、解決が急がれる。などが上げられました。

また、政治評論家：橋本五郎氏の「今後の政局、政治の動きを読む」、テレビキャスター：伊藤聡子氏の「地方活性化が日本の元気を取り戻す」講演も行われました。

本研修は、問題点を浮き彫りにし、解決のための手法、進むべき方向性を明確にした理解しやすい内容で、収穫が多い有意義な研修会でした。

## 川南町議会来町

平成28年6月21日(火)  
三田 敏和

6月21日(火)に、宮崎県川南町議会の川上議長以下5名の議員と事務局の皆さまが委員長研修で来町され、午前10時より安元議長、三田、宮崎両常任委員長が対応しました。

前日は田川郡添田町議会を視察され、上毛町では地方自治法による、『条例で議決する事件の定め(条例で普通地方公共団体に関する事件につき議会の議決すべきものを定めることができる)』について話題になり、企画情報課(福田課長)より説明をするなど議論を深めました。川南町は、畜産を中心とした農業の町で、6年前、家畜伝染病口蹄疫が発生した所です。その影響は農業のみならず関連産業などにも大きな影響があり、町全体が疲弊した状況から今日(最盛期の6割)まで復興されたようです。同じ農業を主体とする上毛町にとっても、察するに余りあるものがあります。

東九州自動車道が全線開通し、4時間余りの距離に縮まったことで今回の研修になったそうです。高速道路の恩恵をいかに町に取り込めるか、上毛町が取り組む大池公園周辺開発にも高い興味を持ち帰路につかれました。

